

しんぱん
しどうようもんしゅう
新版 指導要文集

だいにしょう
じっせん
第二章 実践

ぜんちしき
あくちしき
善知識と悪知識

あくちしき　もう　あま　語　いつわ　こ　ことば　たく
悪知識と申すは、甘くかたらい、詐り媚び、言を巧みに
ぐち　ひと　こころ　と　ぜんしん　やぶ
して、愚癡の人の心を取って善心を破るということな
り。

しょうほつけだいまくしやう
（001 唱法華題目抄）

ぜんちしき　あくちしき
善知識と悪知識 10 ページー 15 行）

あくちしき　あま　ことば　かた　ことば
悪知識というものは、甘い言葉で語りかけ、いつわり、こび、言葉
たく　ぐち　ひと　こころ　と　ぶつどうしゆぎやう　はげ
巧みに、愚痴の人たちの心を取って、仏道修行に励もうとする
こころ　やぶ
心を破るということです。

ぜんちしき　もう

いつこうし

いつこうでし

善知識と申すは、一向師にもあらず一向弟子にもあらずあることなり。

（005 開目抄　かいもくしょう）

ぜんちしき　あくちしき

善知識と悪知識 80ページー9行

ぜんちしき

いつこう　ししょう

いつこう

善知識というのは、一向に師匠というのでもなく、また一向に

でし　　たちば

弟子という立場でもないことをいうのです。

もし知識に値わば宿善還つて生ず、もし悪友に値わば

すなわ ちしき あ しゆくぜんかえ しょう あくゆう あ

則ち本心を失う

012 四信五品抄

ししんごほんしょう

善知識と悪知識

ぜんちしき あくちしき

266 ページ 6 行

後世ごせを願ねがわん人は一切いっさいの悪縁あくえんを恐おそるべし、一切いっさいの悪縁あくえんより
は悪知識あくちしきをおそるべしとみえたり。見

029 顕けん謗ぼう法抄ぽうしやう

善知識ぜんちしきと悪知識あくちしき
497 ページ 14 行

えん

「縁」とは、三因仏性は有りといえども、善知識の縁に

さんいんぶつしょう

あ

ぜんちしき

えん

あ

値わざれば、悟らず知らず顕れず、善知識の縁に値え

さと

し

あらわ

ぜんちしき

えん

あ

かなら

あらわ

ゆえ

えん

い

ば、必ず顕るるが故に、縁と云うなり。

さんぜしよぶつそうかんもんきようそうはいりゆう

そうかんもんしょう

049 三世諸仏総勘文教相廃立（総勘文抄）

ぜんちしき

あくちしき

善知識と悪知識 728 ページ 16 行

しゆくえん もよお

しょう ぶつぽうる ふ こくど う

ぜん

宿縁に催されて、生を仏法流布の国土に受けたり。善

ちしき えん あ

いんが ふんべつ じょうぶつ

み

知識の縁に値いなば因果を分別して成仏すべき身をもつ

ぜんちしき あ

そうもく おと

て、善知識に値うといえども、なお草木にも劣つて、

しんちゆう さんいんぶつしょう

あらわ

もくし

いわ

身中の三因仏性を顕さずして黙止せる謂れあるべき

や。

049 三世諸仏総勘文教相廃立（総勘文抄）

さんぜしよぶつそうかんもんきようそうはいりゆう

そうかんもんしょう

ぜんちしき あくちしき

善知識と悪知識 729 ページ 9 行

さがみのかみどの

ぜんちしき

へいのさえもん

だいばだった

ねんぶつしや

相模守殿こそ善知識よ、平左衛門こそ提婆達多よ。念仏者

くぎやりそんじや

じさいとう

ぜんしようびく

ざいせ

いま

は瞿伽利尊者、持斎等は善星比丘なり。在世は今にあ

いま ざいせ

ほけきよう

かんじん

しよほうじつそう

説

り、今は在世なり。法華経の肝心は、「諸法実相」ととか

ほん まつ

くきよう

ひと

述

そうろう

れて「本と末とは究竟して等し」とのべられて候はこれ

なり。

(107種々御振舞御書

しゅじゅおんふるまいごしよ

ぜんちしき

あくちしき

善知識と悪知識
1235ページー8行)

さがみのかみときむねどの

にちれん

ぜんちしき

相模守時宗殿こそ(日蓮にとつては)善知識であり、

へいのさえもんのじようよりつな

だいばだった

ねんぶつしや

くぎやりそんじや

平左衛門尉頼綱こそ提婆達多であり、念仏者は瞿伽利尊者、

じさいとう ぜんしょうびく

そんざい

しゃくそん

ざいせ

持斎等は善星比丘というべき存在です。釈尊の在世はちようど

げんざい

げんざい

しゃくそん

ざいせ

おな

ほけきよう

かんじん

現在にあたり、現在は釈尊の在世と同じです。法華經の肝心は

しょうじつそう

と

ほんまつくきようとう

「諸法実相」と説かれて「本末究竟等」とのべられているのはこ

の事です。

しやかによらい おん

だいばだつた

だいいち

ぜんちしき

いま

釈迦如来の御ためには提婆達多こそ第一の善知識なれ。今

せけん み

ひと

方 人

の世間を見るに、人をよくなすものは、かとうどよりも

ごうてき ひと

がんぜん

み

強敵が人をばよくなしけるなり。眼前に見えたり。この

かまくら ごいちもん ごはんじよう

よしもり

おきのほうおう

鎌倉の御一門の御繁昌は、義盛と隠岐法皇ましまさずん

にほん しゆ

たも

ひとびと

ば、いかでか日本の主となり給うべき。されば、この人々

ごいちもん おん

だいいち

方

人

にちれん

はこの御一門の御ためには第一のかとうどなり。日蓮が

ほとけ

だいいち

方

人

かげのぶ

ほつし

りようかん

仏にならん第一のかとうどは景信、法師には良観・

どうりゆう どうあみだぶつ

へいのさえものじよう

こうのとの

道隆・道阿弥陀仏、平左衛門尉・守殿ましまさずん

ほけきよう

ぎようじや

よろこ

ば、いかでか法華經の行者とはなるべきと悦ぶ。

（107種々御振舞御書

しゅじゅおんふるまいごしよ

ぜんちしき あくちしき

善知識と悪知識 1236ページー6行）

しやかによらい

だいばだった

だいいち ぜんちしき

いま せけん

釈迦如来のためには提婆達多こそ第一の善知識でした。今の世間

み

ひと せいちよう

みかた

つよ てき

を見ると、人を成長させるものは味方よりもかえって強い敵のほう

ひと

じつれい がんぜん

が人をよくさせているのです。その実例は眼前にもあります。すな

かまくらばくふ

ほうじようしいちもん

はんじよう

わだよしもり

わち、ここに鎌倉幕府（北条氏一門）の繁昌は和田義盛と

おきのほうおう

ごと ばじようこう

てきたい

隠岐法皇（後鳥羽上皇）が敵対したおかげであり、それがおられな

ほうじようし

にほんこく あるじ

かったならば、どうして北条氏が日本国の主となることができた

ひと

ほうじようしいちもん

だいいち

でしようか。ですからこの人びとは北条氏一門のためには第一の

みかた

おな

にちれん

ほとけ

味方であつたといえます。それと同じように、日蓮が仏になるため

だいいち

みかた

とうじようかげのぶ

そうりよ

りようかん

どうりゆう

どう

の第一の味方は東条景信であり、僧侶では良観、道隆、道

あみだぶつ

へいのさえもののじよう

ほうじようときむねどの

阿弥陀仏であり、また平左衛門尉、北条時宗殿がいなかったな

ほけきよう

ぎようじや

よろこ

らば、どうして法華経の行者になれたらうかと喜んでいたので

す。

あるいは少し信ずるようなれども、また悪縁に値つて信心すこ しん
薄うすくなり、あるいは打ち捨て、あるいは信ずる日はあれう す
ども捨つる月もあり。これは水の漏るるがごとし。つき

(170 秋元御書 あきもとごしよ)

善知識と悪知識 ぜんちしき あくちしき
1458 ページー1行

妙法を信仰していても、悪い縁にあうと信心が弱くなったり、
みようほう しんこう わる えん しんじん よわ

または信心を捨ててしまったり、あるいは一日信じて一か月の間
しんじん す いちにちしん いっかげつ あいだ

捨ててしまおうというようでは、これは器から水が漏れるようなもの
す うつわ みず も

です。

ほけきよう

しん

ひと

恐

ぞくにん

されば、法華經を信ずる人のおそるべきものは、賊人・

ごうとう

よう

ころう

ししとう

とうじ

もうこ

攻

強盜・夜打ち・虎狼・師子等よりも、当時の蒙古のせめよ

ほけきよう

ぎようじや

ひとびと

りも、法華經の行者をなやます人々なり。

きようだいししやう

(171 兄弟抄

ぜんちしき

あくちしき

善知識と悪知識

1471

ページー11行)

これよりぐしていたらん人によりて法門は御聴聞あるべし。
具 至 ひと ほうもん ごちようもん
たが してい 互いに師弟とならんか。

226 弁殿御消息 (法門聴聞の事)
べんどのごしようそく ほうもんちようもん こと

善知識と悪知識
ぜんちしき あくちしき
1634 ページ 7 行

そ

き 植

そうろう

おおかぜ吹

そうら

強

夫れ、木をうえ候には、大風ふき候えども、つよき

助 支

倒

もと

お

そうろうき

すけをかいぬればたおれず。本より生いて候木なれど

ね よわ

倒

かい

もの

も、根の弱きはたおれぬ。甲斐なき者なれども、たすくる

ものつよ

けな

もの

ひと

あ

者強ければたおれず。すこし健げの者も、独りなれば悪し

道

倒

きみちにはたおれぬ。

さんぜんだいせんせかい

しやりほつ

かしようそんじや

また、三千大千世界のなかには、舍利弗・迦葉尊者を

除

ほとけ世

出

たま

ひとり

さんあくどう

のぞいては、仏よにいで給わずば、一人もなく三悪道に

お

ほとけ

恃

ごうえん

墮つべかりしが、仏をたのみまいらせし強縁によりて、

いっさいしゅじよう

多

ほとけ

成

あじやせおう

一切衆生はおおく仏になりしなり。まして阿闍世王・

鶯 掘 魔 羅

もう

あくにん

叶

おうくつまらなんど申せし悪人どもは、いかにもかなうま

かなら あびじごく お

きようしゆ

じくて、必ず阿鼻地獄に墮つべかりしかども、教主

しやくそん

もう

だいにん

行

合

たま

ほとけ

成

たま

釈尊と申す大人にゆきあわせ給いてこそ仏にはならせ給

いしか。

ほとけ

道

ぜんちしき

過

我

智 慧

されば、仏になるみちは善知識にはすぎず。わがちえ

何

熱

冷

ちえ

なににかせん。ただあつき・つめたきばかりの智慧だにも

そうろう

ぜんちしき

大

切

候ならば、善知識たいせちなり。

さんさんぞうきうのこと

(352 三三蔵祈雨事

ぜんちしき

あくちしき

善知識と悪知識

1940 ページ 6 行)